

平成26年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

平成26年11月（前回調査：平成23年6月）

3 調査の概要

- ・小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・県内の小学校32校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

| | | | |
|------|-----------------|-----|-----------------|
| 小学校 | 2,976人（抽出率5.7%） | 中学校 | 2,911人（抽出率5.6%） |
| 高等学校 | 1,858人（抽出率5.2%） | 合計 | 7,745人（抽出率5.5%） |

4 備考

本報告書において、

- ・スマホ等とは、スマホ(スマートフォン)またはケータイ(従来型の携帯電話)のことを表す。
- ・スマホ、パソコン、ゲーム機などネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE、ツイッター、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

平成27年2月

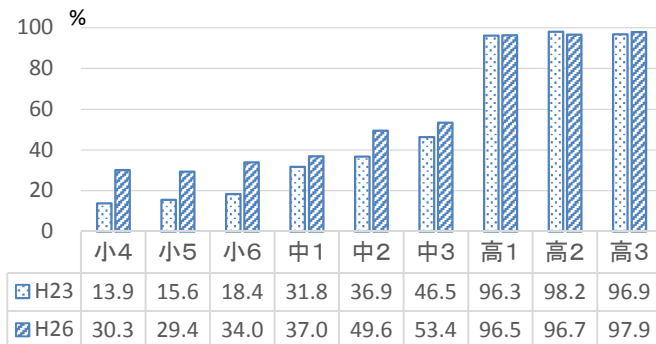
岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概要 〉

- ① 自分のスマホ等を持っている割合は、小学生31.2%、中学生46.7%、高校生97.0%であり、H23年度と比べると、小・中学生で所持率が増加している。
また、自分のスマホを持っている割合は、小学生13.1%、中学生35.9%、高校生91.0%である。
- ② 自分のスマホ等を持っている児童生徒のうち、平日1日に平均3時間以上利用している割合は、小学生9.2%、中学生25.5%、高校生27.9%であり、H23年度と比べると、すべての校種でその割合が増加している。
- ③ 自分のスマホ等を23時以降使用している割合は、小学生が5.1%、中学生が21.5%、高校生が30.7%であり、H23年度と比べると、中・高校生においてその割合が増加している。
- ④ 普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小学生58.0%、中学生77.2%、高校生95.8%である。
また、それらを利用している児童生徒のうち、小学生の75.7%がオンラインゲームを利用し、中学生の71.2%、高校生の92.4%がラインを利用している。

① 自分のスマホ等を持っている割合



◆ 自分のスマホ等を持っている割合

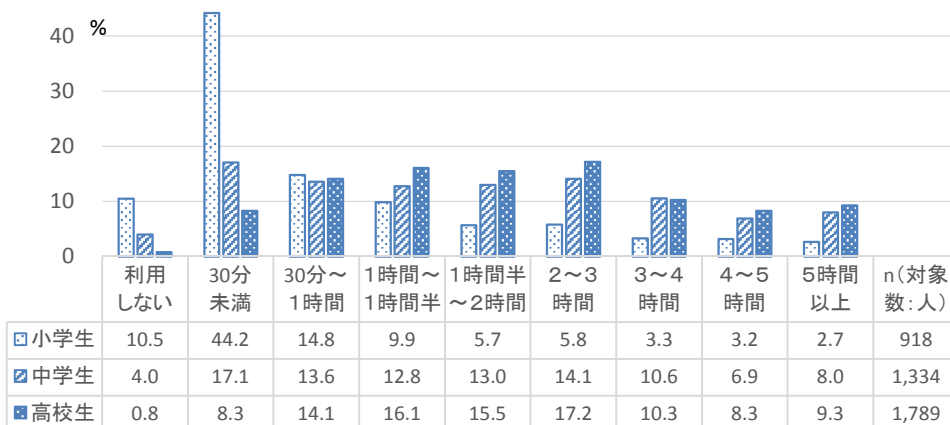
| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-------|-------|-------|-------|
| H23 | 16.0% | 38.4% | 97.0% |
| H26 | 31.2% | 46.7% | 97.0% |
| 全国H25 | 30.3% | 48.8% | 96.4% |

自分のスマホを持っている割合

小学生 13.1% 中学生 35.9% 高校生 91.0%

※全国の数値は、平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査(H26.3報告)による。

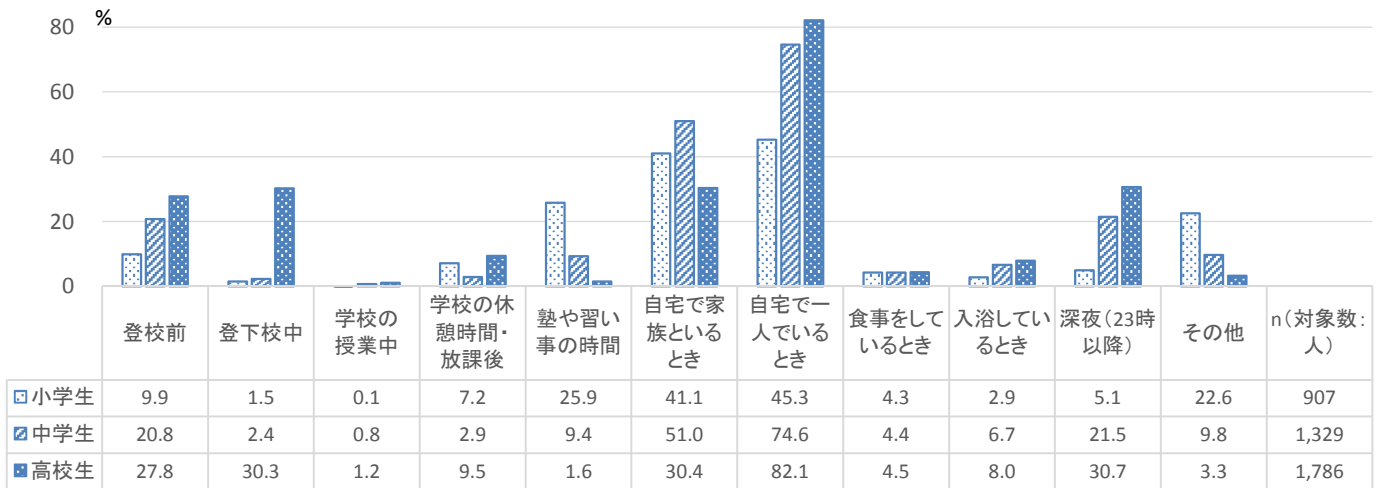
② 平日1日のスマホ等の利用時間(自分のスマホ等を持っている児童生徒が回答)



◆ 1日に3時間以上利用している割合(H23→H26)

小学生 6.4% → 9.2%
中学生 21.3% → 25.5%
高校生 23.7% → 27.9%

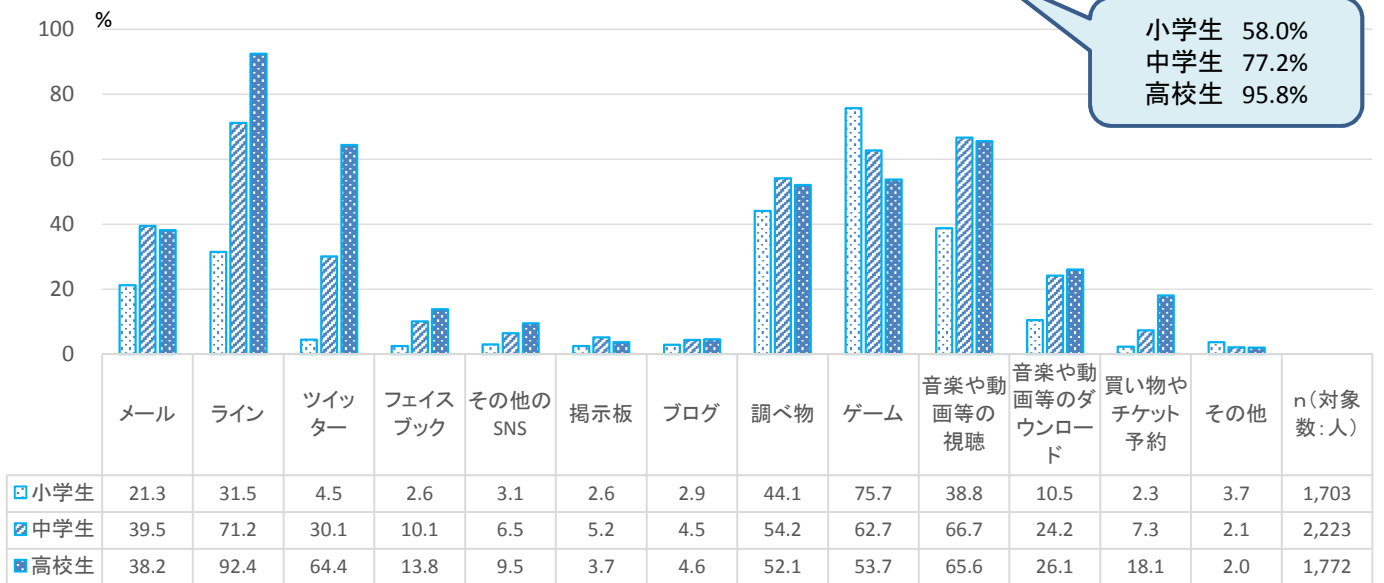
③ スマホ等を利用する時間帯（自分のスマホ等を持っている児童生徒が回答）【複数回答】



◆ 23時以降利用している割合 (H23→H26)

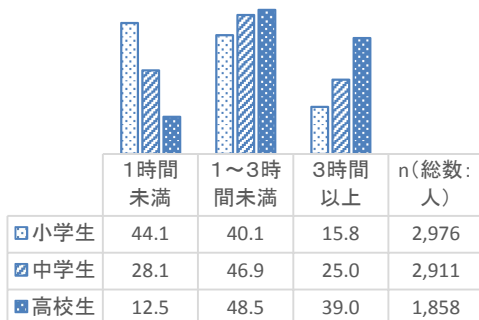
小学生 5.6% → 5.1% 中学生 13.7% → 21.5% 高校生 16.2% → 30.7%

④ ネットやコミュニケーションサービスの利用内容（それらを利用している児童生徒が回答）【複数回答】



参考

◆ スマホ等、パソコン、タブレット、携帯音楽プレイヤー、ゲーム機をあわせた平日1日の利用時間



◆ 自分のスマホ等を持っていない小学生(対象:419人)、中学生(対象:635人)が、ネットやコミュニケーションサービスを利用するために一番よく使うもの

小学生 携帯型ゲーム機 (33.7%)

中学生 携帯音楽プレイヤー (41.1%)

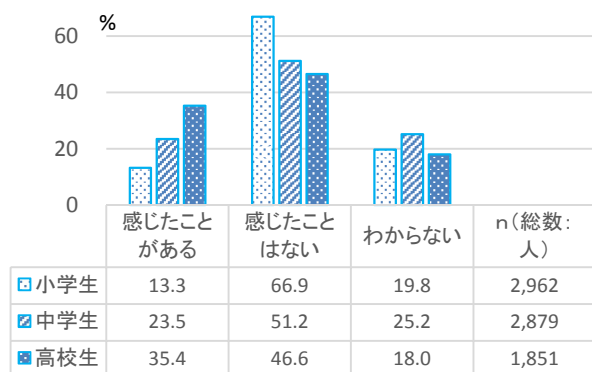
- ゲーム機や携帯音楽プレイヤーなど、スマホ等以外の利用も多いことがうかがえる。
- 自分のスマホ等を持っていない小・中学生も、携帯ゲーム機や携帯音楽プレイヤーからネットやコミュニケーションサービスを利用していることがうかがえる。

(2) スマホ等への依存について

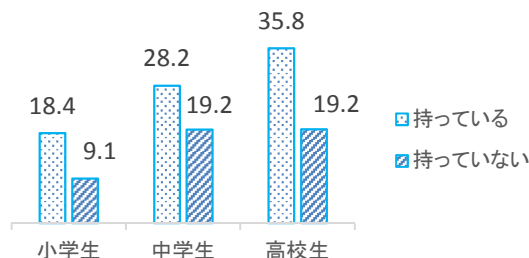
〈 概要 〉

- ① スマホ、ネット、ゲーム機などの利用により、日常生活への影響を「感じたことがある」と答えた割合は、小学生13.3%、中学生23.5%、高校生35.4%である。
また、自分のスマホ等を持っている児童生徒の方がその割合は高く、小学生18.4%、中学生28.2%、高校生35.8%である。
- ② ①で「感じたことがある」という児童生徒が答えた具体的な影響をみると、「スマホ、ゲーム等の使用をやめられない」という割合は、小学生25.6%、中学生36.4%、高校生42.6%である。
また、「勉強をする気にならない」という割合は、小学生33.8%、中学生63.1%、高校生56.9%であり、スマホ、ゲーム等の利用が日常生活や学習面へ影響を及ぼしていることがわかる。
- ③ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために「減った時間がある」と答えた割合は、小学生22.5%、中学生33.9%、高校生40.1%である。
また、自分のスマホ等を持っている児童生徒の方がその割合は高く、小学生26.0%、中学生37.6%、高校生40.4%である。
- ④ ③で減った時間が「ある」という児童生徒が答えた具体的な時間をみると、「睡眠時間」という割合は、小学生27.2%、中学生45.5%、高校生56.4%である。
また、「学習時間」という割合は、小学生28.9%、中学生55.5%、高校生54.4%であり、これらの結果からも②と同様、日常生活や学習面への影響がうかがえる。

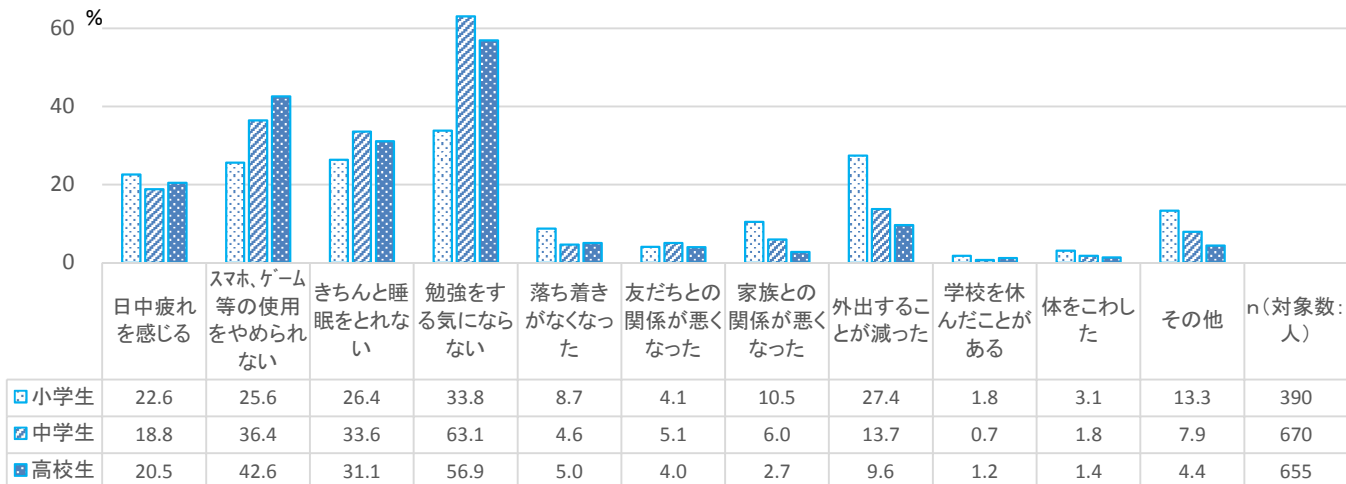
① スマホ、ネット、ゲーム機などの利用による日常生活への影響



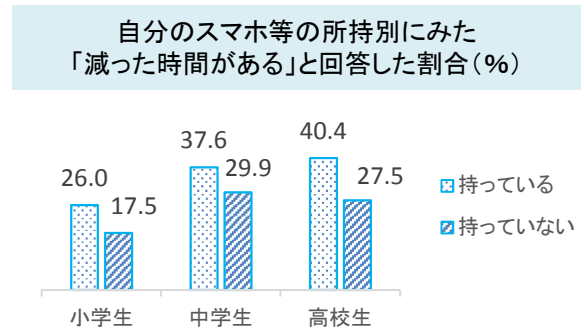
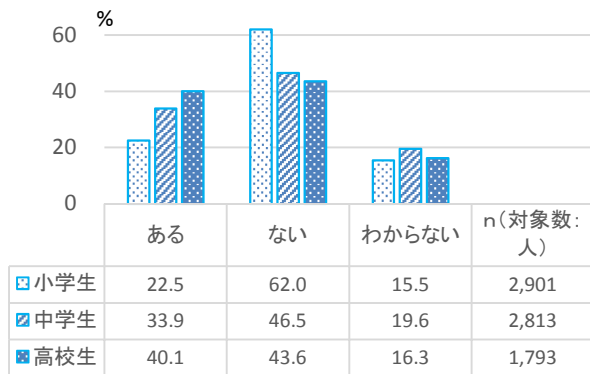
自分のスマホ等の所持別にみた日常生活への影響を「感じたことがある」と回答した割合(%)



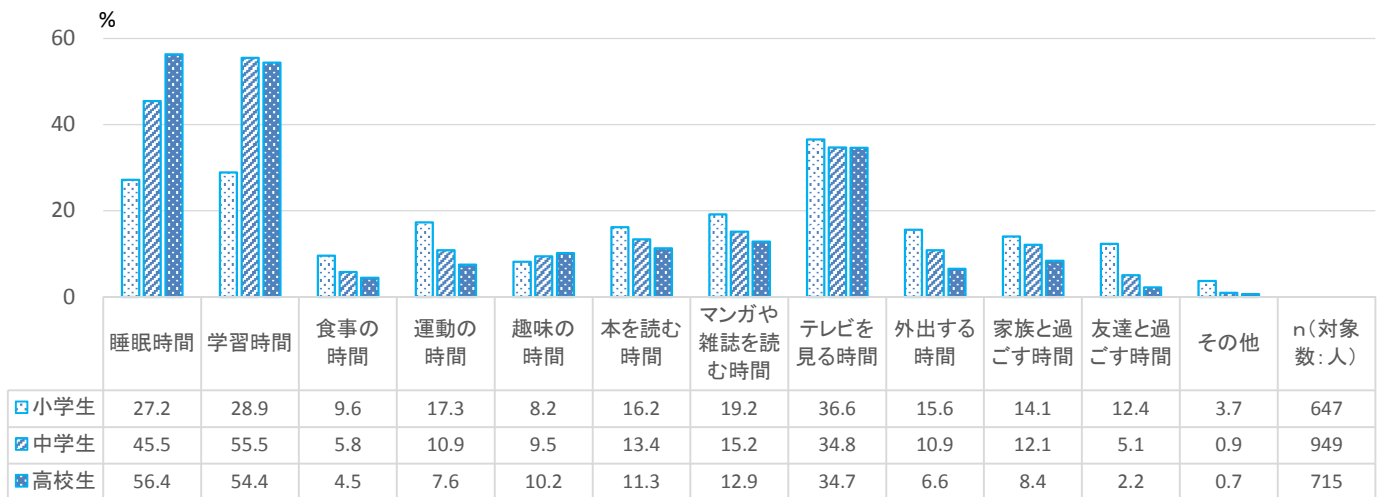
② 具体的な日常生活への影響(影響を「感じたことがある」という児童生徒が回答)【複数回答】



③ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために減った時間があるか



④ 具体的な減った時間(「減った時間がある」という児童生徒が回答)【複数回答】



参考

自分のスマホ等の利用時間別にみた日常生活への影響を「感じたことがある」と回答した割合(%)

| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-------|------|------|------|
| 全体 | 13.3 | 23.5 | 35.4 |
| 0~1時間 | 14.8 | 22.1 | 30.2 |
| 1~3時間 | 25.0 | 30.1 | 37.0 |
| 3時間以上 | 29.8 | 33.2 | 37.7 |

自分のスマホ等の利用時間別にみたスマホなどの利用で「減った時間がある」と回答した割合(%)

| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-------|------|------|------|
| 全体 | 22.5 | 33.9 | 40.1 |
| 0~1時間 | 21.9 | 31.7 | 32.2 |
| 1~3時間 | 34.2 | 40.0 | 42.5 |
| 3時間以上 | 37.0 | 41.7 | 43.3 |

➤ 自分のスマホ等の利用時間が長いほど、日常生活への影響を「感じたことがある」と回答した割合が高く、また、その利用のために「減った時間がある」と回答した割合も高い。

(3) スマホやネットなどを介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

- ① スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、悪口を書かれたり、トラブルにあうなど「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小学生8.0%、中学生15.9%、高校生18.3%である。

また、①の「嫌な経験をしたことがある」という児童生徒のうち、その経験した嫌なことについて、小・中・高あわせて多かった回答は、順に、

「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された。」(42.7%)

「チェーンメールを送られた。」(39.3%)

「SNS等で悪口や嫌なことを書かれた」(15.4%)、「グループからはずされた。」(15.4%) である。

- ② スマホ、ネット、コミュニケーションサービスにおいて、今年度、いじめを受けたことが「ある」と答えた割合は、小学生1.1%、中学生1.1%、高校生0.8%である。

また、今年度、知り合った人に実際会い、トラブルに巻き込まれたことが「ある」と答えた割合は、小学生0.4%、中学生0.5%、高校生0.5%である。

- ③ ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや負担を感じることもある」と答えた割合は、小学生9.4%、中学生17.1%、高校生21.7%である。

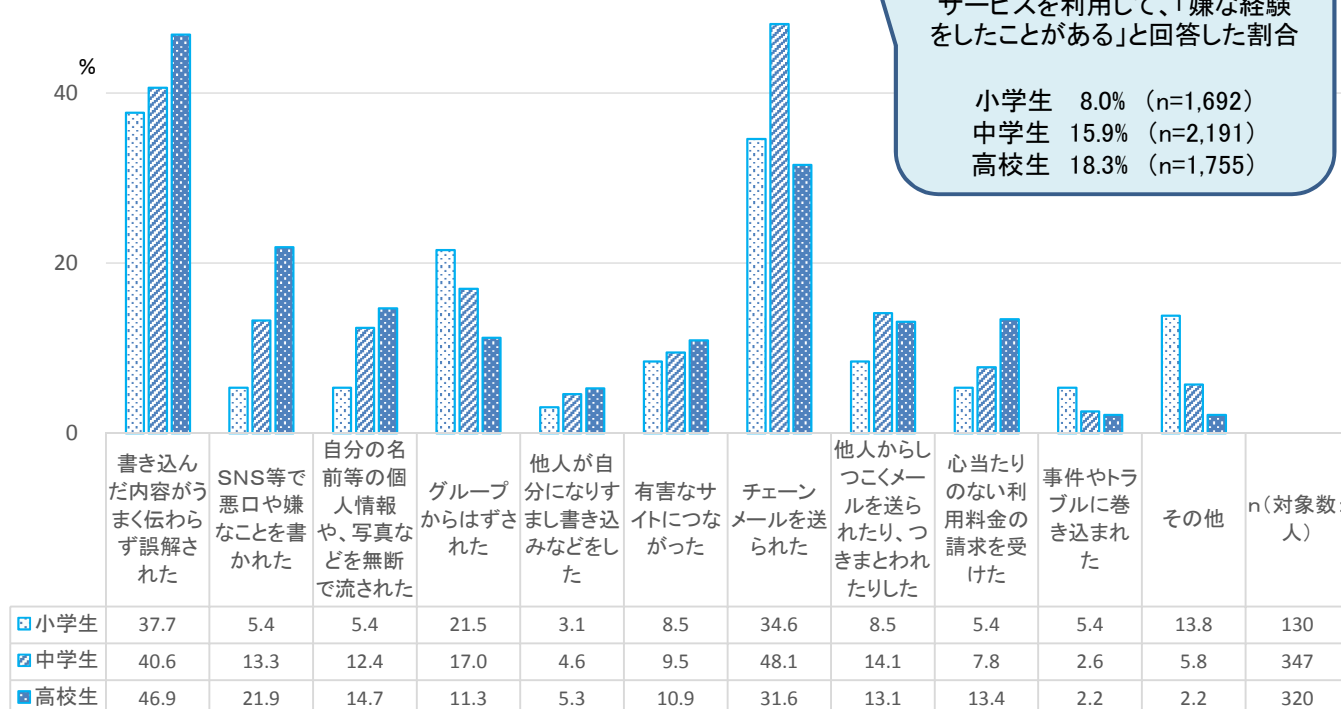
また、③の「悩みや負担を感じることもある」という児童生徒のうち、その悩みや負担について、小・中・高あわせて多かった回答は、順に、

「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」(38.1%)

「自分の書き込みがあれでよかったかと後で悩む」(37.6%)

「メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェック)があること」(32.9%) である。

① 経験した嫌なことの内容(「嫌な経験をしたことがある」という児童生徒が回答)【複数回答】



② スマホ、ネット、コミュニケーションサービスにおいて、

今年度、「いじめを受けたことがある」と答えた割合

小学生 1.1% (n=1,692) 中学生 1.1% (n=2,197) 高校生 0.8% (n=1,763)

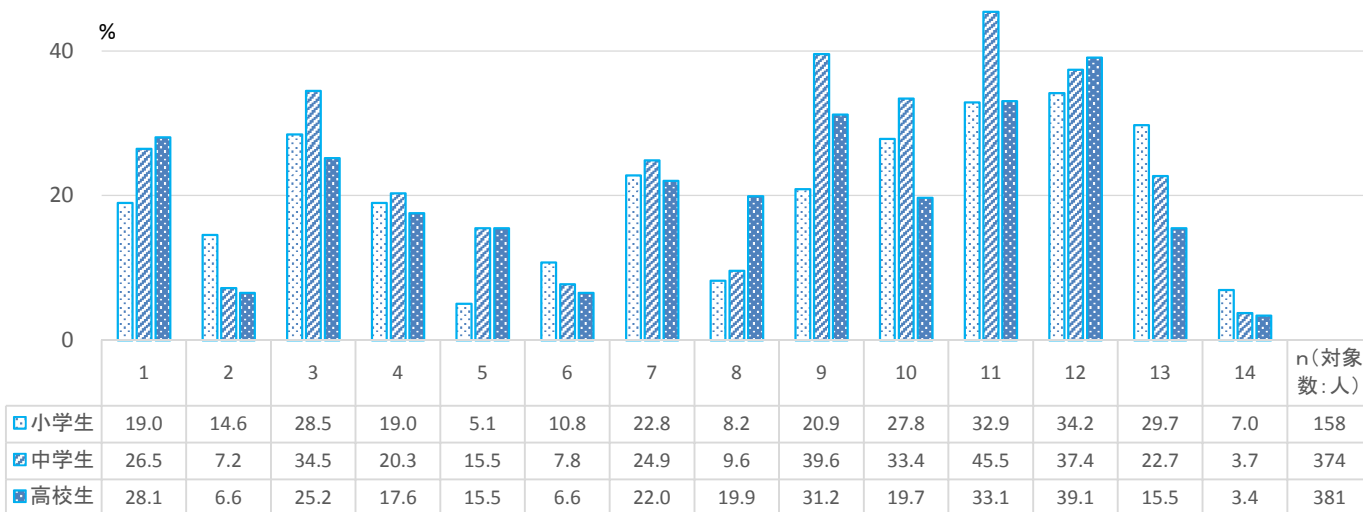
今年度、「知り合った人に実際に会い、トラブルに巻き込まれたことがある」と答えた割合

小学生 0.4% (n=1,678) 中学生 0.5% (n=2,192) 高校生 0.5% (n=1,754)

③ 具体的に感じている悩みや負担の内容（「悩みや負担を感じることもある」という児童生徒が回答）【複数回答】

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや負担を感じることもある」と答えた割合

小学生 9.4% (n=1,698) 中学生 17.1% (n=2,203) 高校生 21.7% (n=1,762)



- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 利用しているコミュニケーションサービス内の人間関係 3 友だちのメッセージをチェックすること 5 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む 7 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる 9 メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェックなど)があること 11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと 13 自分の書いたメッセージに反応がないこと | <ul style="list-style-type: none"> 2 ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする 4 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む 6 悪意のあるコメントや荒らしがくること 8 知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと 10 メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと 12 自分の書き込みがあればよかったかなどと後で悩む 14 その他 |
|--|--|



性別やスマホの所持・利用時間からみた「嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-----------------|------|------|------|
| 全体 | 8.0 | 15.9 | 18.3 |
| 女子 | 10.6 | 18.9 | 22.1 |
| 自分のスマホ等を所持 | 12.0 | 19.7 | 18.4 |
| 自分のスマホ等の利用3時間以上 | 26.3 | 23.9 | 22.4 |

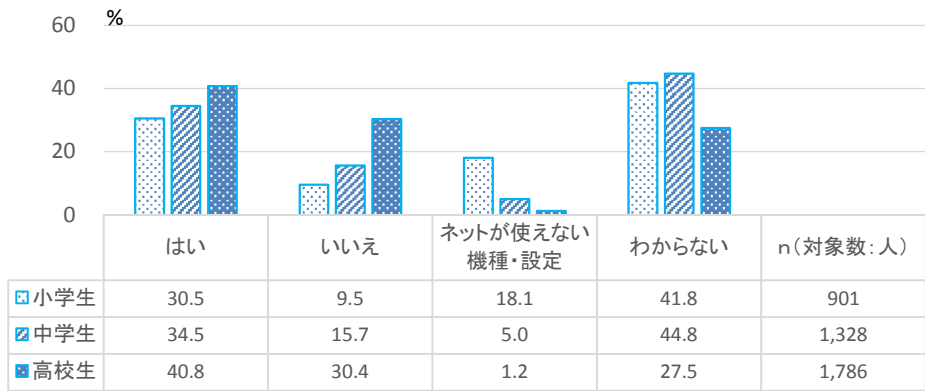
性別やスマホの所持・利用時間からみた「悩みや負担を感じることもある」と回答した割合(%)

| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-----------------|------|------|------|
| 全体 | 9.4 | 17.1 | 21.7 |
| 女子 | 12.4 | 24.0 | 26.5 |
| 自分のスマホ等を所持 | 12.9 | 19.5 | 21.8 |
| 自分のスマホ等の利用3時間以上 | 20.0 | 25.5 | 20.4 |

➤ 「嫌な経験をしたことがある」、「悩みや負担を感じることもある」の両方に共通して、女子の割合が高く、また、特に小・中学校においては、自分のスマホ等を所持し、長時間利用している児童生徒の割合が高い。

参考

フィルタリングの設定（自分のスマホ等を持っている児童生徒が回答）



◆ フィルタリングの設定率 (H23→H26)

- 小学生 30.1% → 30.5%
- 中学生 44.2% → 34.5%
- 高校生 37.7% → 40.8%

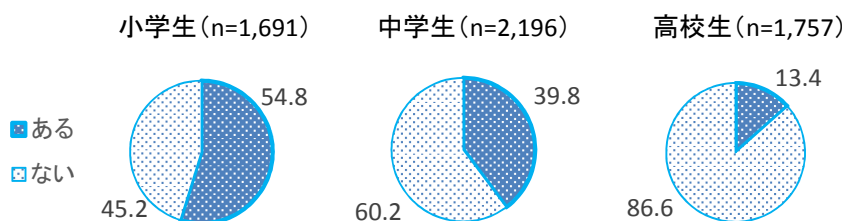
➤ 中学校において、フィルタリングの設定率がH23年度と比べて下がっている。

(4) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

〈 概要 〉

- ① スマホなどの利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小学生54.8%、中学生39.8%、高校生13.4%であり、H23年度と比べると、小・中・高すべてでその割合が減少した。
 ①の「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールを「守っている」または「どちらかというを守っている」と答えた割合は、小学生94.5%、中学生91.0%、高校生92.6%である。
 ①の「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについて、小・中・高あわせて多かった回答は、順に、「使う時間」(59.0%)、「知らない人からのメール等に返信しない」(46.5%)、「他人が傷つくような書き込みはしない」(33.6%)である。
- ② スマホ、ネット、ゲーム機などの利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めている割合は、小学生55.8%、中学生29.4%、高校生6.3%である。
- ③ スマホやネットなどの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合は、小学生79.1%、中学生88.1%、高校生91.2%であり、H23年度と比べると、小・中学校において、その割合が増加した。

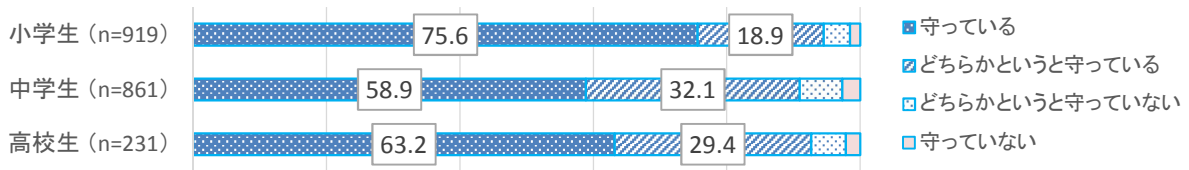
① スマホなどの利用に関して家庭のルールが「ある」と答えた割合



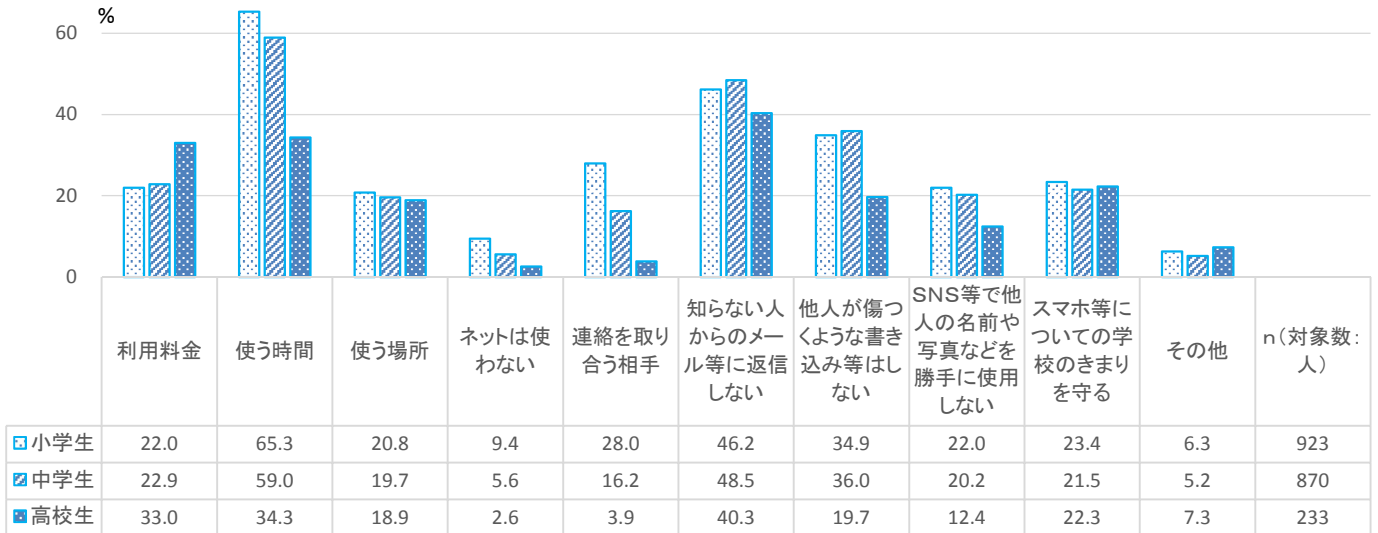
◆ 家庭のルールがあると答えた割合 (H23→H26)

- 小学生 63.2% → 54.8%
- 中学生 70.3% → 39.8%
- 高校生 51.7% → 13.4%

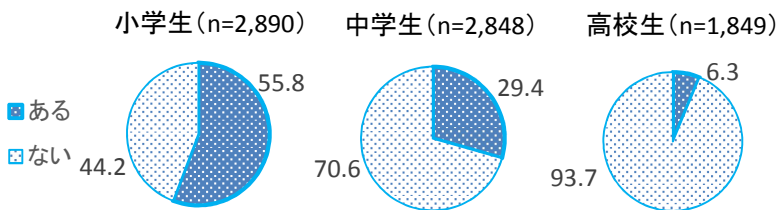
家庭のルールを「守っている」または「どちらかというど守っている」と答えた割合 (%)
 (「家庭のルールがある」という児童生徒が回答)



家庭のルールの内容 (「家庭のルールがある」という児童生徒が回答) 【複数回答】



② スマホ、ネット、ゲーム機などの利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めている割合



◆ 具体的に決めている時刻 (多い方から順に)

- 小学生 ①21時 (52%) ②20時 (16%)
- 中学生 ①21時 (50%) ②22時 (30%)
- 高校生 ①23時 (30%) ②21時、22時 (23%)

③ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合 (%)

| | ◆ 学んだことがあると答えた割合 (H23→H26) | | | ◆ 誰から学んだか (%) | | |
|-----|----------------------------|------|-----|---------------|------|-----|
| | ある | ない | 不明 | 学校 | 保護者 | 販売店 |
| 小学生 | 79.1 | 13.6 | 7.3 | 61.3 | 60.1 | 4.5 |
| 中学生 | 88.1 | 5.7 | 6.2 | 91.6 | 34.8 | 5.2 |
| 高校生 | 91.2 | 4.4 | 4.4 | 95.3 | 15.6 | 8.5 |



平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査(内閣府：H26.3報告)によると、

◆ 「子どもがネットを使うことに関して心配なことがある」と答えた保護者は、87.3%

その上位4項目は、

- ①名前などを安易に書き込んでしまう (46.5%)
- ②目を悪くするなど健康を害する (46.1%)
- ③ネット利用が長時間になる (45.3%)
- ④暴力的、性的、反社会的な内容などを含むサイトにアクセスする (42.6%)

(5) まとめ

- ① 児童生徒は、スマホ以外にもゲーム機や携帯音楽プレーヤーなどからネットに接続し、LINE等のコミュニケーションサービスを簡単に利用できる環境にあり、「書き込んだ内容が誤解された」「チェーンメールを送られた」「悪口などを書かれた」「グループからはざされた」といった嫌な経験をしている。
- ② H23年度と比べて、自分のスマホ等を持つ小学生の割合が約2倍に増えている。
また、小・中・高すべてで、自分のスマホ等を平日に3時間以上利用する割合が増えている。
- ③ スマホやゲーム機などの利用により、「スマホ、ゲーム等の使用をやめられない」「勉強をする気にならない」などの日常生活への影響を感じたり、また、「学習時間」「睡眠時間」などが減ったという児童生徒もみられ、特に自分のスマホ等を持っている児童生徒でその割合が高い。
- ④ ネットやコミュニケーションサービスの利用で、悩みや負担を感じている割合は、特に女子において高い傾向にあり、「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」、「自分の書き込みがあれでよかったかと悩む」、「メッセージを読んだことがわかる既読機能があること」といった悩みが多かった。
- ⑤ H23年度と比べて、フィルタリングの設定率は中学校で減っており、スマホ等の利用に関する家庭でのルールがあると答えた割合も、小・中・高等学校すべてで減っている。
また、スマホやネットの危険性について学んだことがある割合は、小・中学校において増えている。

(6) 今後の対策

1. スマホやゲームの夜間使用制限の取組の推進

午後9時以降のスマホやゲームの夜間使用制限について、学校・教育委員会・PTAが連携し、子どもたちを守るという観点から、各家庭においてスマホ等の利用に関するルールについて話し合う機会をもつよう積極的に働きかけるなど、実効性のある取組として推進していく。

2. 児童生徒の主体的な取組の推進

スマホ等の正しい利用に関して、生徒会等が中心となり、自分たちで利用のルールづくりを行ったり、ビデオや寸劇を作成して小学生等への啓発を行ったりするなど、児童生徒の発想を活かした主体的な取組が実現し、更に広がっていくよう、学校、教育委員会がPTAと連携を図りながら積極的に支援する。

3. 小学校からの適切な情報活用能力の育成

小学校から、各学校で発達段階に応じて、ネットの利便性を体験させ、情報を正しく効果的に活用する能力を計画的に養うとともに、児童生徒自身がスマホ等の適切な利用について考えたり、その危険性や情報モラルについて学習する機会を設定する。

4. 教職員の指導力の向上

スマホやネット利用の実態や問題点について、他の教員に指導できる中核的な教職員を全ての学校で養成するとともに、教職員の指導力向上のため、児童生徒からも利用実態を聞きながら、ネット上のいじめやその対処法、スマホ等の適切な活用や情報モラルについての研修を実施する。

5. 保護者啓発の充実

調査結果を踏まえた資料を作成し、家庭でのルールづくりやフィルタリング設定の必要性について、各家庭への周知を図るとともに、各学校において、通信事業者の協力も得ながら、PTAとともに保護者対象の研修を実施し、スマホ等の適切な利用に関する理解を深めるなど啓発の充実を図る。